

REPORT

第30回 淑楓祭

2005.11/3(木)~6(日)

星が丘キャンパス

長久手キャンパス

星が丘キャンパス最多の4592人が来場

今年度は学園創立100周年、大学創立30周年ということで、今まで以上の大学祭を創りあげるべく、「プレゼント」というテーマのもと、お客さんに最高の思い出をプレゼント、そしてお客さんの楽しんでる姿が僕達にとつてなによりのプレゼント、という思いで実行委員一同力を合わせてきました。その結果、今年の来場者数は星が丘キャンパス史上最多となる4592人となりました。

1号館では、ゼミ・サークル・学外団体による教室企画やフリーマーケット、毎年行列が出来る

ほとどの人気のお化け屋敷が行われました。お化け屋敷は今年も大好評、教室企画とフリーマーケットを回ると参加出来るミニゲームも大変な賑わいを見せていました。

オープンスペースには特設ステージが建ち、バンドやダンス等の団体や、お客さんが参加するゲーム企画で盛り上がっていました。その隣には模擬店が所狭しと建ち並び、お客さんを満足させていました。

1日目は天候にも恵まれ、ゲストのライヴもあり、ステージの周りが人で埋め尽くされることもありました。

2日目はあいにくの雨となり、後夜祭の頃には風もできて、思い通りにいかないこともありましたが、最後まで温かく見守り、楽しんでくれたお客さんいました。

今年の大学祭もここに終わりを迎えるわけですが、学校関係者をはじめ多くの方々の協力により大成功をおさめられたと思います。関係者の方々、そして大学祭に来てくださった4592人の1人1人に感謝いたします。みなさん本当にありがとうございました！（星が丘キャンパス委員長 藤ヶ谷拓郎）



記念祭で打ち上げられた花火



ステージ



模擬店

花火でお祝い 学園の100thバースデーパーティー

今年度は、愛知淑徳学園創立100周年にあたり、また、大学も開設30年目を迎えました。これを記念して、星が丘、長久手の大学祭実行委員会が共同して、11月3日(祝)に「愛知淑徳学園創立100周年記念祭」を開催しました。長久手キャンパス体育館における映像作家の堤幸彦氏による講演に耳を傾け、秋の澄んだ夜空に咲いた250発の大輪の花火の真下に身を置いた多くの人が、それぞれに愛知淑徳の100年という時間を思う1日を共有することができました。

余韻に浸る間もなく、11月5、6日には第30回淑楓祭を迎えました。今回のテーマには「きっかけは淑徳(ここ)から」を設定し、淑楓祭で素敵な「きっかけ」を感じてもらえる祭りを目指しました。

5日は絶好の秋晴れに恵まれ、午前10時、第30回淑楓祭のスタートを告げる号砲を合図に、各模擬店やステージは一齐に回り始めました。午後からのゲスト「HOME MADE家族」のライヴパフォーマンスを待ちきれないファンが朝早くからかけつけ、開場までに並ぶ人たちの列がずいぶん長く続きました。

また、2日目は雨の中ながら、ステージも模擬店も前日に劣らない活気で祭りを盛り上げ、16時半から開催された後夜祭では、ゲストの「まちゃまちゃ」が、独特の風貌で、押し寄せた観客を笑いの渦に巻き込む熱演を見せてくれ、会場の体育館全体が揺さぶられるようなラストダンスで有終の美を飾りました。

この2日間で7000人以上の方々が来場してくださり、第30回淑楓祭は多くの方々のご支援ご協力により無事に閉幕を迎えました。実行委員一同心より感謝いたします。(大学祭実行委員長 天野寛人)



特設ステージ(上も)



フリーマーケット